

世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

館長の作家対談
三浦しをん(小説家)



六世中村歌右衛門「京鹿子娘道成寺」白拍子花子(1964年10月歌舞伎座) 撮影:吉田千秋/©松竹株式会社

収蔵品のご紹介 小栗虫太郎「黒死館殺人事件」原稿
ライブラリー〈ほんとわ〉活動報告
セタブンマーケット2019 開催報告

館長の作家対談

ゲスト
三浦しをん
(小説家)

聞き手
菅野昭正
(世田谷文学館館長)

2019年に『ののほな通信』で河合隼雄物語賞、『愛なき世界』で小説家として初の日本植物学会賞を受賞。秋には『あの家に暮らす四人の女』のドラマ化など、活躍を続ける小説家の三浦しをんさんをお迎えし、当館館長がお話を伺いました。

どっちつかずの町

菅野▼対談のアペリティフ(食前酒)のつもりで、三浦さんは以前に葡萄酒の修業をなさったそうなので『黄金の丘で君と駆けまわりたいのだ』、葡萄酒の話からお聞きしたいと思います。どのような種類の葡萄酒をお好みになりますか？

三浦▼私はアルコール全般が好きなので何でも飲みますが、あのときは全然詳しくなれずに終わりました(笑)。ワインは、友達と会ったり、家で飲んだりするときに結構飲みますね。ボルドーの赤が好きです。

菅野▼ボルドーというと、ボルドーの北西にメドックという地域がありますが、メドック・マラソンというものがあるんですね。先日偶然、新聞でその

記事を読みましたけれども。

三浦▼色々飲みながら走るそうですね。

菅野▼普通マラソンで見かける給水所が、給「葡萄酒」所らしいですね。そういうものを飲みながら走って、よく倒れたりしないかと感心します。

三浦▼本当ですね。私の知り合いがメドック・マラソンに参加したことがあるんです。走るのも飲むのも好きな人で、でも「あれは楽しいけどつかった」と言っていました。

菅野▼そういうものに参加しようと思われたことはないですか。

三浦▼いや、私はちよつと走るのは無理です。

菅野▼さて、小説の話になりますが、僕が最初に三浦さんの作品を拝見したのは『まほろ駅前多田便利軒』——便利屋さんの話でした。あの地名の「まほろ」は、記紀歌謡の「やまとは国のまほろば」からお取りになったんですか。

三浦▼そうですね。それもあつたんですけど、モデルが町田だったので「ま」が一緒だし、みたいな感じで決めました。

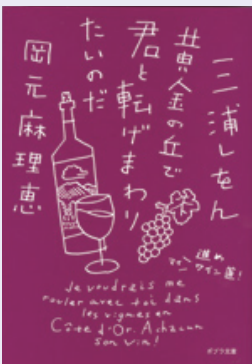
菅野▼小説に出てくる電車の「ハコキュー」が、新宿から神奈川県川崎市をいったん通つて、また東京に出るところで、これはどうも町田らしいなと分かりますね。その昔、町田に住む女性がい

したり、家の中の細かい整理をしたりしていて。私が町田の本屋でアルバイトしていたときのお客さんでした。お話を聞いて、面白い仕事があるんだなと思いました。

なかなか大変な女性研究者

菅野▼三浦さんの作品を読むと、小説の舞台——小説の空間的枠組みをお作りになるのが上手な印象があります。例えば、神保町の岩波書店がモデルではないかと憶測させる『舟を編む』。それから東大を舞台にした最新作の『愛なき世界』などがありますね。『愛なき世界』でひとつ伺いたかったのが、大学や講堂の名称はインリアルで伏せて、後は固有名詞が出てきます。赤門とか本郷通りなどが出てくるから、読者は東大のことが書かれていると分かる訳ですね。それなのになぜ、「T大」と「Y田講堂」は伏字にしなければならなかったのかなと。

三浦▼確かにT大にする必要は全然なかったですね。ただ、東大の植物学科に取材に行かせて貰つて、古い校舎が今も使われている様子がすごくいいなと思って、設定は東大にするつもりでした。それでも、固有名詞ではちよつと書きにくい感じ



『黄金の丘で君と駆けまわりたいのだ 進め マイワイン道!』
共著:岡元麻理恵 2015年
ポプラ社(単行本は2011年)



『まほろ駅前多田便利軒』2009年
文藝春秋(単行本は2006年)



『舟を編む』2015年
光文社(単行本は2011年)



『ののほな通信』2018年
KADOKAWA



『愛なき世界』2018年
中央公論新社

もありました。これは新聞連載で、何となく最初のもので「T大」と書きちゃったので、後で大学名は全部、他の大学もインリアル表記に統一しました。後は、三四郎池も固有名詞を出さずにぼやかして「池」にして、ただの池になっちゃったんですけれども。

菅野▼これは小説の中心となる問題ではありませんけれどね。空間の佇まいという言い方は変かもしれませんが、場所のイメージがしつかり描かれていて感心しました。テーマが純粋に専門的なことですから、取材されるのは大変だったのではないですか。

三浦▼はい。私は理系のことは全然分らないのですが、すごく難しかったです。でも、書いているときは「作中に出てくる実験なら、自分でもできるかもしれない」と思えるほど、色々教えていただきましたね。ちよつと実験も体験させて貰ったりもしました。

菅野▼東大が小説になったのは、漱石の『三四郎』以来かもしれませんね。大江健三郎の短編『死者の奢り』などもありますけれど、いわば部分的ですからね。大学を舞台にして小説を書くのは、特に理系の研究室での話などはなかなか難しいものではないですか。

以前、女性研究者の細胞すり替え騒動が世間を騒がせたことがありますが、この小説をお書きになるときに意識されたりしましたか。

三浦▼いや、ないです。前から女性の研究者を主人公にしたいと思っていて、小説はSTAP細胞騒動の後でしたが、そちらとは関係なく構えずにやろうと思いました。

菅野▼遺伝子組み換えに関わるような研究は、学内での規制は今でも厳しいでしょうね。

三浦▼非常に厳しい規制、研究倫理に関する意識の高さがあると思います。特に植物は、遺伝子をいじったものが外部に漏れて野生の草と繁殖してしまうと困るので、そういった事故が絶対に起きないように、厳密な管理体制に置いてあります。

菅野▼執筆にあたっては東大だけでなく、他の大学の研究室などからも、色々お知恵を拝借されているようですが、例えば「T大」の研究室では、大学院の学生で女性の割合はどのくらいでしたか。

三浦▼私が最初に取材に行つた頃は、研究室の半分以上が女性でした。こうした比率は変化するようですが、生物系は割と女性の研究者が多いようには聞きました。

菅野▼今回、女性の研究者を主人公にする小説を構想・発想された、何か特別な動機はありますか。

三浦▼取材して面白かったというのが第一ですが、なんだかんだ言つて、女性が研究者としてずつとやっていくのは、なかなか大変だという事が、取材を通して感じ取れました。大学の先生となると、文系もそうですが特に理系は今も男性の方が圧倒的に多いです。女性研究者は、結婚して子どもができると数年间は研究に打ち込めないとか、旦那さんの職業によつては、なぜか旦那さんの転勤で奥さんの方が研究をやめて同行することもあるらしいです。何となくの世間の圧力もあるんじゃないですか。そんなもの「旦那が一人で赴任地へ行け」つて思うんですけど。これから変わっていくでしょうが、中には研究を断念する方もいらつちやつたようです。それでも研究をやりたいと頑張っている若い人たちが結構多くいることを知って、そういう女性を主人公にしたいと思つたんです。

菅野▼女性の研究者と、普通の洋食屋の修業をしている若者——あれはなかなか好青年ですけれども、このふたりの組み合わせが対照的で面白いですね。

三浦▼ありがとうございます。ふたりとも、自分



りして。最近、「えぐい」という言葉をよく皆さん使いますね。いまいち、まだ私の中で絞り切れていないので観察しているんです。一体この「えぐい」は、どういう使われ方の「えぐい」なのかと。やつぱり「やばい」と一緒で、いい意味でも使われている気がします。気持ち悪いという感じだけでなくて、「臍腑をえぐられるほどすごい」みたいな意味で使われているパターンがある気がします。

菅野 現代小説を書く場合は特に、新しい言葉や風俗、そうした変化に関心を持ち続けなければならぬ部分もあるのでしよう。

三浦 ▽そうですね。だから皆、だんだん時代小説とかを書くようになるんじゃないかと思ったりします。

菅野▽三浦さんは時代小説をお書きになったこと
はありますか。

三浦▽ありません。いつか書きたいものがあり
まして、島原の乱を書きたいなとずっと思ってい
るんです。資料は集めているんですけど、「ど
う書くか」となると難しいですね。それから時
代小説ってなぜか、「天正何年何月、本能寺では
……」のような書き出しが多い気がするんです
よ。現代小説だと、日付と場所をまず名乗るよ
うな小説はほとんどないので、あれは不思議に
思います。

菅野▽島原の乱の他には、時代小説で何か題材は
考えておられますか。

三浦▽島原の乱以外だったら、そうだな、もつと奈
良時代とかそれぐらい昔の話がいいですね。

菅野▼奈良時代というとお父さまが古代文学の研究者でいらっしやいますね。

三浦▼父はそうですね、主に古事記の研究をしています。

菅野▼あの時代を書いた小説はあまりない気がしますね。現在は何か構想中、執筆中の小説はありますか。

三浦▼小説を連載していて、男子高校生たちの話を書いています（「エレジーは流れない」、「小説推理」にて連載中）。

菅野▼それは、女子高校生が登場する『ののな通信』と対比しているのでしょうか。やつぱり、男の子同士が恋愛するんですか。それとも、そうはならない？

三浦▼まったくしなさそうですね（笑）。全然テイストが違っていますね。

菅野▼「ののな」には、野原や道端の花といった意味合いもあるのでしょうか。社会の脇のほう

にそつと咲いて、世の中を見ているような感じです。

三浦▼そういう感じです。特にすぐ目立つわけじゃないけど、ちゃんと綺麗に咲いている、本当の野原にある野草です。

菅野▼この小説を拝見してお聞きしたかったのは、終わりを2011年になるのはよく分かりましたが、起点が1984年でした。最初の構想では、2011年の頃に中年の女性になっているから、その下地を書くとするのと8年くらいに高校生じゃないといけないと、逆算したので。

三浦▼そうですね、逆算です。

菅野▼最終章では冒頭の、はなさんの手紙を最後に、野々原さんの便りだけが続きますが、最後はどうなるのか、小説の上では少なくとも分からない。それは分からないことにして終えている訳ですね。その終わり方も初めから予定通りでした。

三浦▼はい、そうですね。この後またふたりが会うことがあるのか、それとも、はなはどこかで死んじやっているのか、分からないですよ。

菅野▼僕は小説を書いたことがないから分からないけど……例えば犬の散歩にしても、飼い主は犬をちゃんとさせていますね。でも犬は別のほうに勝手に行ったりして、無理やりこちに引張って行こうとしたりする。小説を書いていても、そういうことはあります。

三浦▼あります(笑)。私は犬を飼ったことがないので想像ですが、小説も犬の散歩と一緒で、コースは大体は決まっているものだと思うんです。でもそれは言っても、その日の飼い主や犬の気持ちによつて、ちよつと大回りになったり、今日は近道



にしておこうみたいのがあると思うんですよね。
 なので、犬がどうしてもこっちへ行きたいのなら
 ば、それはそっちへ行くんですけれど、でも最終
 的には、犬も飼い主も家に帰らなければまずい訳
 です。
 菅野▼引き戻すやり方が難しいこともあるでしょ
 うね。
 三浦▼たまに犬が怒って嘔みついてくるので、そこ
 は難しいですね。それはもう、すごい勢いですが
 ら。でも、犬が別に行きたいところもなく、しお
 しおと飼い主の言うままに引きずられるように
 歩いているんじや、それはやっぱ「いい散歩」に
 はならないと思うんです。
 (2019年10月25日、世田谷文学館館長室にて)

(2019年10月25日、世田谷文学館館長室にて)



言葉の海

の世界を追求するという意味では共通項があります。後は、植物の研究とは一体どうやって、何を研究しているのか、私も全然知らなかったし、大半の人はきつとそうだろうと思ひ、洋食屋の店員さんみたいに全く異なる職業の人をもうひとりの主人公にして、未知の世界を知っていく展開にしたかったんです。

菅野「少し廻りますが、『舟を編む』のタイトルは、作中の辞書の名前が『大渡海』なので『舟』のイメージを使われたのでしょうか。明治期に国語学者の大槻文彦が編纂した『言海』があります。そういうものを意識されましたか。

三浦「そうです。辞書の世界では、『言葉』イコー

「海」が付く辞書の名前にしようと思いました。

菅野▽こちらでも色々取材なさったのでしようね。

三浦▽ぼちぼちしましたね。岩波書店や小学館などです。

菅野▽「広辞苑」と『日本国語大辞典』ですね。やはり相当に長い期間にわたって、言葉に拘泥して辞書作りに専念する訳ですから、辞書に関わる方たちはどこか、何となく世間的な常識人としてはちよつと外れたようなタイプになってしまふのか、あるいはそういう人だからこそ、辞書作りの専門家になったのか……。取材された感じでは、いかがでしたか。

三浦▽ええとですね、辞書専門の編集者の方も相当変わっているなと思いましたね。だけど編集者の場合は、社内でのそれこそ折衝とか人員配

そうは言つてもちゃんと社員生活ができてゐる訳です。一方、辞書の監修をなさるような、用例を日々採集するような先生方は、やつぱりすぐく変わつていくというか、面白い方が多かつたです。いつでも、例えばこうやつてお話ししていても「スチャッ」（ペンとメモ帳を取り出す仕草）みたいな感じで、突然メモを取つて。

菅野▶僕は「国語学者の大野晋先生とお目にかかる機会が少しありました」が、当時、大変緊張した印象がありますね。こちらが何か話すときに、例えば言葉遣いがちよつと変わつていると、「もう一回言つてみて」となつたりするんです。異なる表現や、言葉の使い方なんかのメモを取られたりしてね。ご一緒に食事をして、も、おちおち食べられないという感じでした。

三浦▽そうですよ(笑)。言語学とはそういうものなんですよ。うね。しかしあれは、周りの人には結構大変です。ご家族とかは本当に大変なのではないかと思えますね。

菅野▽要するに、植物なんかの研究と似ているかもしれないですね。採集するわけですから、用例を色々と。

三浦▽本当に。文系の中では恐らく言語学が一番、理系のこういう理学の基礎研究と似ているなと思いましたね。

菅野「そうですね。植物学者の牧野富太郎さんと、国語学者の大槻文彦さんのように、ああいう方たちは同じ種類の人間なのかもしれませんね。三浦さんは、ご自分でも色々な新しい言葉なんか、関心をお持ちになったりすることはありませんか。」

三浦▼今までは私も結構、言葉についてはテレビとかで聞いていても、今のは何だろうって思うタイプだと思っていたんですけど、辞書に携わっている方たちを知ってからは、いやまったく、私なんて毎日寝て過ごしているよ、うなものであると思いました。

菅野・まよまあ、向こうは玄人ですからそれはまた別な話です。ごく普通に、ご自分で他の人よりは言葉に敏感だとか、そういうことをお感じになることはありますか。他の作家の作品を読んでいる、言葉遣いが気になるとか。

三浦▽どちらかというと、言葉遣いよりも本になったときの誤字脱字とかが気になりますね。雑誌などでも、これはちよつと校正と編集が甘いのではないかなことはすぐ気になるところがあります。

小説と「いい散歩」

菅野・三浦さんの小説は、登場人物の会話がとても生き生きとしています。今の、新しい言葉を上手に取り入れられていますが、使うのが難しいところもあるでしょうね。あまり行き過ぎると、国語の乱れということになって、国語学者の指弾を受けてしまう。

三浦▼そうですね。新しい言葉はどんどん死語になっていくので、どのくらいまで小説で使うかは難しいです。

菅野・小説家としては、言葉の変化には常に関心をお持ちにならないといけないでしょうね。

三浦 確かに電車内で、特に若い人たちの会話とかにはすごく興味がありますね。気になった言葉は後で、10代の子どものいる友達に聞いてみた



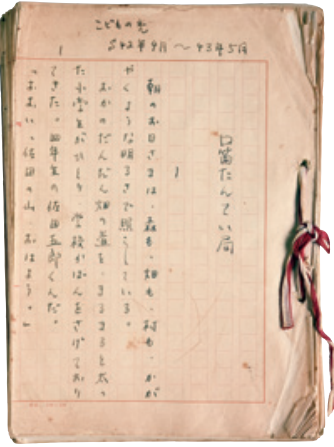
◎ 仁木悦子資料 ◎ [538点]

寄贈者:二日市可代様

寄贈品:「水曜日のクルト」原稿ほか原稿・詩稿、創作ノート、書簡、絵画、図書・雑誌・台本類など



「水曜日のクルト」原稿(大井三重子名義)



「口笛たんてい局」原稿



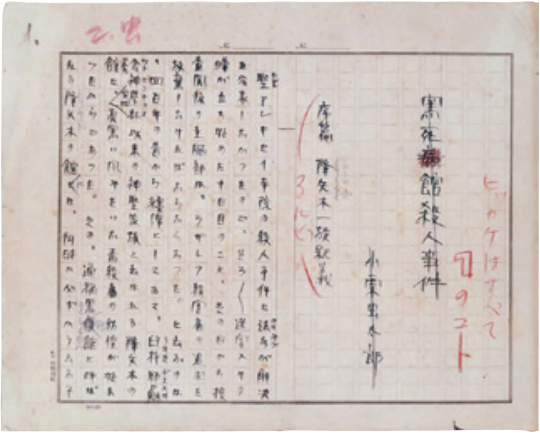
黒猫のイラスト

2018(平成30)年度の収蔵品について

小栗虫太郎(明治三十四年生まれ、本名栄次郎)のデビュー作は、「新青年」の昭和八年七月号掲載の「完全犯罪」。病に伏した横溝正史のピンチヒッターとして登場しました。それ以前には織田清七名義で作品を発表していますが、小栗虫太郎という筆名が使われたのはこれが最初でした。その後、刑事弁護士・法水麟太郎が登場する中短編をいくつか手掛け、「新青年」の昭和九年四月号より長編小説「黒死館殺人事件」を十二月号まで連載。小栗虫太郎の代表作となりました。「黒死館殺人事件」は、夢野久作の『ドラ・マグラ』、塔晶夫・中井英夫の『虚無への供物』とともに日本ミステリー(三大奇書)の一つに数えられています。

小栗虫太郎

「黒死館殺人事件」原稿



「黒死館殺人事件」原稿(上下とも)

◎ ムットーニ作品 ◎ [3点]

作 者:MUTTONI(武藤政彦)

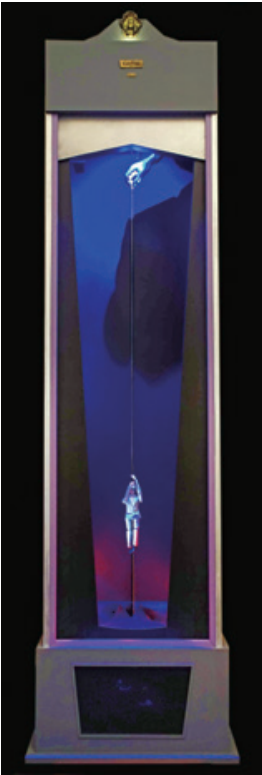
作品名:《アトラスの回想》2015年 原作:中原中也「地極の天使」

《蜘蛛の糸》2016年 原作:芥川龍之介「蜘蛛の糸」

《題のない歌》2017年 原作:萩原朔太郎「題のない歌」



《アトラスの回想》



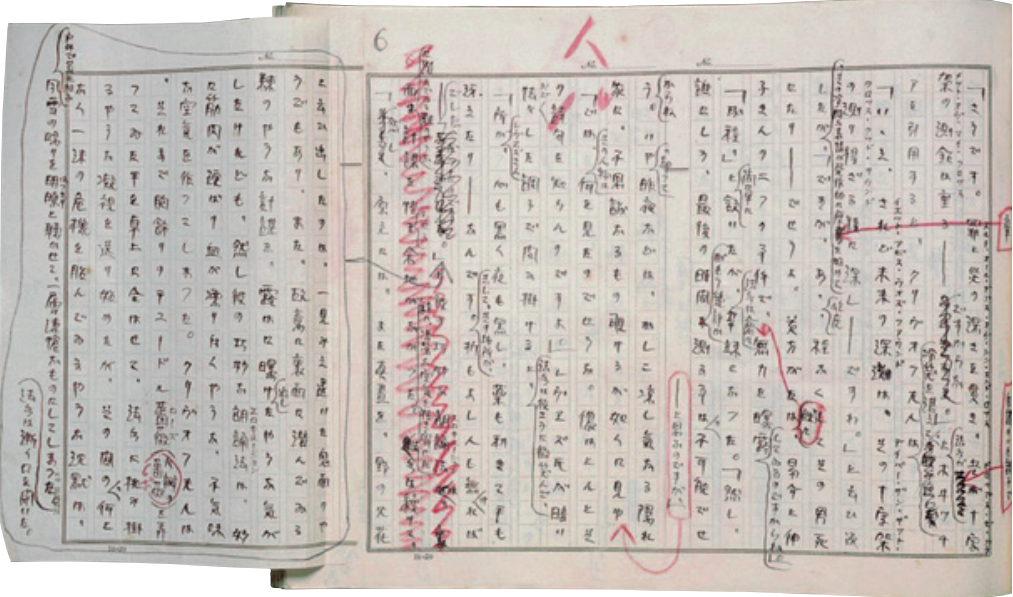
《蜘蛛の糸》



《題のない歌》

昨年度に収集した収蔵品は541点(購入3点、寄贈538点)です。寄贈者のご協力に感謝申し上げます。収蔵品をご紹介します。

小栗自身、「著者之序」(「黒死館殺人事件」新潮社、昭和十年)で「この一篇はいろいろな意味からして、私にとると、貧しい理想の集積とも云えるのである」と述べるように、「黒死館殺人事件」には膨大な知識が詰めこまれており、徹底的な作品とされます。あらすじとしては、降矢木一族の



つてやると、その方がよいかも知れんが、しかし死、病、殺——と三文字ダブルやうぢやいかんし、では黒死館とやらう。——となつた。」「(負傷したコザック騎兵』「ぶろふいる『昭和十一年七月号』と述べています。実際に原稿を見ると、たしかに「黒死病館殺人事件」の「病」の字が赤鉛筆で塗

洋館で起きる不可解な連続殺人の謎に法水麟太郎が挑む、という探偵小説ですが、探偵役の法水麟太郎の語りは饒舌で、知識は多分野にわたり、読者により難解な印象を与えます。澁澤龍彦が「キリスト教異端やオカルティズム文学の伝統の全く存在しない日本に、本格的なオカルティズム小説を打ち樹てるといふ、まさに空中楼閣の建設にもひといし超人的な力業の結晶であつた」(解説『黒死館殺人事件』桃源社、昭和四十九年)と評しているように、単なる謎の解決ではない読み方のできる作品です。

このような(奇書)「黒死館殺人事件」の原稿からは、小栗虫太郎が、何度も言葉を考え直し、こだわりをもつて創作していたことが伝わります。

小栗は「黒死館殺人事件」の題について、「所が、一昨年『黒死館』を書くようになって、サア困つた。適当な題名がない。僕は『新青年』に『降矢木一族吟味鎮末』とか、『鎮魂楽殺人事件』とか題名を云

つてやつたんだが、どつちもウンと云つてくれない。それで仕方なしに、黒死病館とはどうだい——と云

幾度となく刊行されてきた『黒死館殺人事件』は作者自身の校訂が入つた新潮社版や、山口雄也氏によつて当館収蔵原稿と連載初出との校異が示されている「新青年」版(作品社)など、いくつかの版で読むことができます。文庫本でも読むことができますので(奇書)に挑戦してみませんか。

*「黒死館殺人事件」原稿校正刷り、松野一夫による「黒死館殺人事件」挿絵原画はコレクシ展「新青年」と世田谷ゆかりの作家たちにて2020年4月5日まで展示。



連載第1回「新青年」昭和8年7月号

資料受贈報告

2019年7月1日〜10月20日

▼安野モヨコ様 石井耕様 伊藤勲様 神坂玉子様 鈴木茂夫様 目下野仁美様 福田耕介様 細野祐一様 松本真様 松本徹様 湯本香樹実様

▼阿部知二研究会 いわき市立草野心平記念館 神奈川近代文学館 菊池寛記念館 慶應義塾大学出版会 小諸・藤村文学賞事務局 サトエ記念21世紀美術館 司馬遼太郎記念館 J A M M Y たましん地域文化財団 鶴岡市立藤沢周平記念館 東京都江戸東京博物館 東京都教育庁地域教育支援部 豊島区文化デザイン課 日本歌人クラブ 沼津市芹沢光治良記念館 春吉書房 福井県ふるさと文学館 松山市立子規記念博物館 丸岡図書館 三浦綾子記念文学館 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 茂吉資料館時の扉亭 山梨県立文学館 理論社 芦花公園五行歌会

▼「海」「海紅」「街道」「かねこと」「カプリチオ」「経堂雜記」「空想カフェ」「くきくき」「九品仏川柳会句会報」「群系」「原型富山」「鴻」「香蘭」「心の花」「さつき」「春耕」「正午」「抒情文芸」「詩鑑」「水晶」「川柳研究」「タクラマカン」「蠶」「短歌人」「探偵随想」「地中海」「白」「風」「プチ★モンド」「文藝軌道」「焰」「本のP a r k i n g」「窓」「ランプル」「りんこの木」「暦日」(五十音順・団体名敬称略)

りつぶされており、小栗の言うとおり、当初「黒死病館」と想定されていたことがうかがえます。原稿には、小栗によつて、所狭しと書き込みが入れられ、文字が塗りつぶされ、あるいは、紙を貼つてまで文言が追加されています。当館には、この原稿の他に、「黒死館殺人事件」の校正刷りも収蔵されており、こちらにも修正のあとがみられます。



エッフェル塔を背景にした「隅田川」公演の電光ポスター(1990年) 撮影:岡崎哲也



前田青邨「助六由縁江戸桜」揚巻の襦袢 白地精好梅図 世田谷美術館蔵 撮影:上野則宏
© Y.MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2019 E3581

主催:公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
監修:児玉竜一
協力:松竹株式会社、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、
公益財団法人松竹大谷図書館
協賛:株式会社ウテナ、東邦ホールディングス株式会社
後援:世田谷区、世田谷区教育委員会

歌舞伎はわが国が世界に誇る総合芸術にしてエンターテインメントです。400年間にわたって芸を継承し様式美を追究する一方で、戦略的に他ジャンルとのコラボレーションや最先端のテクノロジーも取り入れながら時代に合わせた進化を続け、活況を呈しています。

世田谷岡本を終の棲家にした六世中村歌右衛門(1917〜2001)は、五世の次男として生まれ、女形ひと筋に歩みました。その艶麗で品格ある芸風は日本のみならず世界も魅了し、三島由紀夫が「時代を代表する俳優」と絶賛したとおり、年齢とともに「まことの花」を咲かせながら、昭和から平成にかけて歌舞伎界を名実共に牽引していきます。

本展では「京鹿子娘道成寺」「隅田川」「伽羅先代萩」「助六由縁江戸桜」「壇浦兜軍記」など、当たり役と言われた名作とともにその役作りを紹介、海外公演の足跡などもあわせて展観し、不世出の女形の人と芸に迫ります。

歌右衛門の長男・中村梅玉さんは本展に寄せてこのように語っています。(中村梅玉氏へのインタビュー全文は本展図録に掲載予定です)

伝統に倣い、伝統を超えようとする役者たちのひたむきな精進は、心の琴線を震わせる物語や情感あふれる音楽、きらびやかな衣裳や華やかな舞台装置にも支えられています。彼らの作り出す舞台に、過去現在どれほど多くの「トシ子さん」たちが魅せられ、喝采を送ってきた

——歌舞伎というのは決して文化遺産ではなく、その時代その時代ですつと伝わっている芸だと思っんですよ。基本はもちろん古典のものだけれども、それを現代の世の中にどういふふうに表示して、お客さまにアピールするかということに一番心を砕いていたのは、もしかしたらうちの父だったように思っんです。新しいものにたくさん挑戦しましたしね。



琴 三味線 胡弓「壇浦兜軍記」〈阿古屋の琴責め〉の場面で歌右衛門が使用した楽器。この作品の見どころは阿古屋に扮する女形が実際に舞台上で琴、三味線、胡弓を弾きこなすところにある。歌右衛門はこれをたくみに弾き分け、当り芸のひとつとなった。
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵

■記念講演会
講師:渡辺 保(演劇評論家)
開催日:2020年1月19日(日) 14:00〜15:30
定員:150人 参加費:1,000円(展覧会観覧料含む)
申し込み方法:完全前売制/ローソンチケット 12月26日(木) 10:00より販売。
Lコード:35474
※ローソンチケット(全国ローソン、ミニストップ)にてチケットを販売します。
https://l-tike.com/ TEL0570-000-777

■「松竹歌舞伎屋本舗」がやってくる！
期間中、ミュージアムショップにて歌舞伎座で人気のお菓子や関連グッズを販売します。2月1日(土)から2月16日(日)まで開運の小槌や名前札の口上つき実演販売も実施します。(ミュージアムショップの利用は17:30まで)

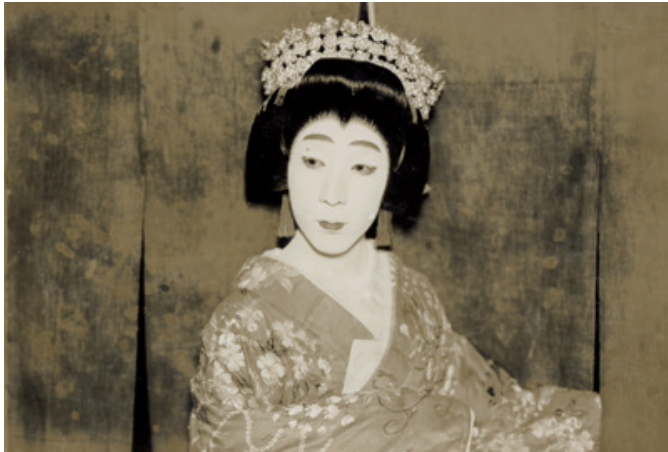
※そのほかのイベントは当館HPにて随時お知らせいたします。

時代を代表する俳優として

セピア色に変色した1枚のプロマイド。裏面にはまだ幼さも残る墨文字で「昭和十九年九月新橋演舞場ニテ 絵本太功記 初菊 中村芝翫」と書かれています。

プロマイドの持ち主は田中トシ子さん。昭和2年生まれの下町育ちです。女学校を卒業したばかりのトシさんは、戦死した長兄の一家と同居し、兄嫁を助けて家事や子どもたちの世話にいそしみ、昼間は女子挺身隊として工場で働く毎日を送っていました。

戦時下の青春を支えた夢の舞台



「絵本太功記」初菊(1944年9月新橋演舞場) 個人蔵



「籠釣瓶花街酔醒」ハッ橋(1975年11月歌舞伎座) 撮影:吉田千秋/©松竹株式会社

六世中村歌右衛門 (なかむら・うたえもん)

本名・河村藤雄。屋号・成駒屋。1917年、五世中村歌右衛門の次男として東京に生まれる。誕生間もなく左足の脱臼で2回の大手術を受ける。22年三世中村兎太郎を名乗り初舞台。33年六世中村福助を襲名、以後女形専門となる。41年六世中村芝翫を襲名。51年、再建間もない歌舞伎座で六世中村歌右衛門を襲名する。研究会「苔会」を主宰し、古典の復活や、

新作にも取り組んだ。60年には歌舞伎初のアメリカ公演に参加、世界各国で海外公演を行った。64年最年少で芸術院会員に、68年重要無形文化財保持者(人間国宝)に、79年文化勲章を受章。戦後歌舞伎を代表する名優として活躍した。2001年3月31日、世田谷岡本の自宅で逝去。

企画展のご紹介

ようこそ歌舞伎の国へ

「六世中村歌右衛門展」

会期:2020年
1月18日(土)〜4月5日(日)
世田谷文学館 2階展示室

「ただひたむきであること以外に、この人の『真実』はなかったのだろう」(橋本治「私の歌右衛門論 花の盛りを舞い狂う」)

送っていました。そんなトシさんの息抜きが友人と連れ立って出かける歌舞伎見物。戦争が激しくなる中、昭和19年3月には「決戦非常措置要綱」により歌舞伎座や東劇(東京劇場)は閉鎖さ

れますが、一部の劇場では公演が続けられていました。初菊を演じた六世中村芝翫、のちの六世中村歌右衛門は当時27歳。輝くばかりの美貌と気品にトシさんはすっかり魅せられてしまいます。

トシさんは昭和50年に胃癌のため若くして亡くなりますが、病床で繰り返し長女に語ってきたのが、戦争中に観た歌舞伎の楽しさ、素晴らしさでした。

さまざまな人々が集い、
人と人、人とモノが
交流する
出会いを蚤の市で



地域のイベント「からすやま下町祭り」
から、からびょんも来館した。



フライヤー
Illustration: 中村隆、Design: 秋澤一彰
© 石森プロ / 街づくりまんぼう



開館前の様子



会場の様子



「ルラシオン(菓子・コーヒー)」芦花公園
駅北口、旧甲州街道沿いの洋菓子
店。今回はシェフ自慢のお菓子と人
気のリモナード(自家製レモンシロ
ップソーダ)とアイスコーヒーを提供。



「石巻マルシェ(物産)」東京の大森で毎週
土曜日に宮城県石巻の物産販売を行う
ボランティア団体。サンマやクジラの缶詰、
ほやのおつまみ、東松島の新海苔などに人
気が集まった。



「アリマ洋菓子店(菓子)」芦花公園
駅北口に店を構える3代続く洋菓子
店。人気の焼き菓子やドーナツ、フ
ルーツゼリーなどを販売。



「宮城ふるさとプラザ(物産)」池袋駅東口
にある宮城県のアンテナショップ。宮城の
美味しい海の幸、山の幸、人気の銘菓など
を取り揃えた。



「喫茶どんぐり(菓子・ドリンク)」当
館1階の喫茶店。今回は、おなじみ
のクッキーやシフォンケーキのほか
に、懐かしさを感じる水で冷やした
瓶のラムネやコーラなども販売。



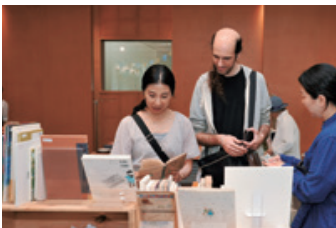
「Sandwich & Co.(サンドウィッチ)」世田
谷区弦巻にあるサンドイッチ専門店。ポ
リウムのあるサンドイッチや、子どもたちに
大人気のフルーツサンドを提供。

2015年に当館の新企画として登場した「セタブンマーケット」は、「本との新しい出会いがある場」、「文学を介した交流の場」をつくることを目指すイベントです。世田谷区内外の古書店・雑貨店・飲食店に加え、地元の芦花公園商店街の洋菓子店にご参加いただいた、本と食の蚤の市「セタブンマーケット」の様子をお伝えします。

【本・古書】



「まどそら堂(古書)」杉並区国分寺の60年代～
80年代を中心に、様々な種類をそろえる書店。
今回は石ノ森章太郎のコミックスを中心に、映画
のパンフレットなども販売。



「七月書房(古書)」下北沢で実店舗を運営して
いたが、現在はイベントやネットショップで様々
なテーマに沿った古本を選書・販売している。
今回は絵本や雑誌などを中心に取りそろえた。

【雑貨】



「OLD NEW THING(雑貨)」調布市仙川の雑貨
店。国や時代やジャンルの垣根を越えて「懐か
しくもあたらしい」と感じる品々を国内外から広
く買い付け、今回は食器や衣類を販売。



「木遊木(雑貨・ワークショップ)」安心・安全で、
人と自然にやさしい製品をテーマにしたフォトス
タンドや一輪挿しなどを販売。また、東日本大
震災の大津波流出品(ガレキ)を使い、ザラザラ
な表面を磨くことで、木のぬくもりをかんじられ
るキーホルダー制作を体験できるワークショッ
プも開催。(講師:遠藤伸一)

【イベント】



「シージェッター海斗と撮影握手会」フランソ
ワーズの進行のもと、会場の約半分を占める空間
に集まった子どもたちと、写真撮影と握手会
が行われ、マーケット全体を盛り上げた。(協力:
石ノ森萬画館)

5年目となる本年は地域イベント「第10回
からすやま下町まつり」、開催中の企画展「萬
画家・石ノ森章太郎展 ポクはダ・ビンチにな
りたかった」(4月20日～6月30日)との連動
企画として実施しました。
本年度のテーマは「萬画家・石ノ森章太郎」。
晩年、石ノ森は郷里への貢献活動として「マン
ガを活かした街づくり」にも尽力し、没後、東
日本大震災により被災した郷里では、石ノ森
作品に励まされた人びとが震災復興に奮闘

しており、その様子を展覧会では「引き継が
れる『絆』」としてご紹介しました。
セタブンマーケット会場では、宮城県や石
巻市の特産品やグルメ、石ノ森萬画館や石巻
のヒーローをご紹介するほか、震災の流木を
使った木工や子どもも楽しめるミニワーク
ショップなどを開催しました。

ご来場ご参加及びご協力いただいた皆様
に御礼申し上げます。

開催日時:2019年6月1日(土)
10～16時
会場:世田谷文学館1階文学サロンほか
出店・出品者(敬称略)

【本・古書】まどそら堂(古書)/七月書房(古書)
【雑貨】 OLD NEW THING(服・食器)
【フード】 石巻マルシェ(宮城物産)/宮城ふる
さとプラザ(宮城物産)/Sandwich
& Co.(サンドウィッチ)/ルラシオン
(菓子)/アリマ洋菓子店(菓子)/
喫茶どんぐり(菓子・ドリンク)

【ワークショップ】木遊木(工作)講師:遠藤伸
【イベント】シージェッター海斗と撮影握手会
(ふれあい) 協力:石ノ森萬画館/
太一堂鍼灸院(解説) 講師:近藤
美智代



「太一堂鍼灸院」芦花公園で開業して24年のベテラン
鍼灸師が、痛みやしびれ、自律神経の乱れなどにつ
いてレクチャーした。(講師:近藤美智代)

「セタブンマーケット2019」開催報告



過年度展示風景

【出品予定書家】 (五十音順、敬称略)
荒谷 大丘 安東 麟 池亀 壽泉
稲村 龍谷 上田 南郷 白倉 仔龍
卯中 恵美子 太川 啓子 大根田 照雲
川口 青澄 久村 拓司 小久保 展代
後藤 俊秋 齊藤 洪生 棒 菖扇
師田 久子 鈴木 暁山 清 麗雪
竹内 青紗 田中 栄子 津田 嘉泉
坪西 美枝 永井 閑翠 野口 泰雲
野口 白雲 橋 久美子 原田 青苑
深田 東穂 丸尾 鎌使 安岡 田鶴子
米田 洋子 渡邊 鄧美子

*出品書家は予告なく変更になる場合があります。

世田谷区内在住書家による
第38回 世田谷の書展
——世田谷ゆかりの作家たち——
2020年1月5日(日)～12日(日)
1階文学サロン 観覧料〃無料
世田谷区内在住の日本を代表する書家の新作を、会派を超えて一堂にご覧いただく、またとない機会です。墨の芸術と世田谷ゆかりの作家たちの言葉が融合する世界をご堪能ください。

展覧会のご案内

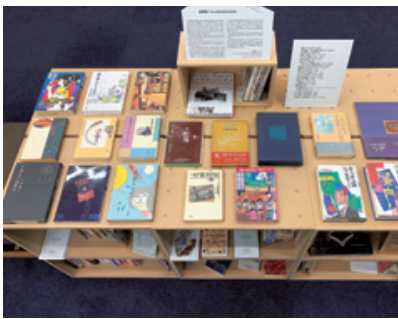
ライブラリー〈ほんとうわ〉活動報告

〈ほんとうわ〉とは？

2017年4月に施設改修工事の一環として館内のライブラリー(図書室)をリニューアルし、「ほんとうわ」と名付けました。ハードの面では、世田谷区と縁組協定を結ぶ群馬県川場村の木材を使用した温もりのある書棚やテーブル、イスなどの家具で、乳幼児を中心とした子どもたちのためのエリアを新設。ソフトの面では、このスペースが多様な書物との出会いの場となるよう、オープン以来さまざまな選書企画やイベントなどを行なっています。〈ほんとうわ〉のロゴマークは作家・装幀家ユニット、クラフト・エヴィングス商会さん(2014年に当館で企画展を開催)によるデザイン。また、入口の看板のイラストは近年人気のイラストレーター、長場雄さんに描いていただいたものです。〈ほんとうわ〉はいくつかの意味を重ね合わせて付けたものですが、この屋号に込めた意味に沿って、これまでの活動をご紹介します。

〈本と輪〉

訪れる人々が本との出会いの輪を広げられるような、2つの選書企画を行なっています。ひとつは、各分野で活躍されている方が独自のテーマで3冊の本を選び、コメントとともに推薦する企画「本と輪」。これまでに作家、絵本作家、漫画家、画家、イラストレー



ター、翻訳家、編集者、映画監督、写真家、哲学者、研究者、フードデザイナー、探検家など多彩な視点で選ばれた本が集まり、さまざまな分野に興味関心が広がるコーナーとなっています。もうひとつの「古書店主の本棚」は、都内近郊の古書店が、お店の個性の表れた本の数々をコメント付きで紹介する企画。古書店の特色ある本棚を通して、さまざまな時代や文化をも集積することを目指しています。

〈本と和〉

子どもたちにお話と遊びを届けるユニット・Pipio(武本佳奈絵+平澤朋子)さんによる絵本や紙芝居の語り読み、手遊びや言葉遊び、工作などを交えたイベントを継続して行なっているほか、新設した子ども



〈本当は？〉

本は文章や図版を楽しむだけでなく、家族や友人に聞けない疑問や問題に直面した時にも必要となるものです。日々の暮らしの中にある正解のない問いを、共に考える場となるよう実施しているイベントが「ほんとうわ哲学カフェ」です。毎回、幅広い年齢層の参加者が、絵本を読んだり開催中の企画展を観覧して湧いてきた問いを話し合う、充実した時間が生まれています。

デジタル技術の進展などにより、図書館や書店、出版の環境は大きく変わりつつあります。〈ほんとうわ〉はオープンから3年目を迎えました。が、今後も文学館のライブラリーとして、〈本とは？〉何か？を考え、そして〈本・永久〉を願いながら、さまざまな試みを行なっています。



企画展

第38回 世田谷の書展

2020年1月5日(日)～12日(日)

観覧料: 無料



過年度展示風景

ようこそ歌舞伎の国へ 六世 中村歌右衛門展

2020年1月18日(土)～4月5日(日)

観覧料: 一般800円、高校・大学生・65歳以上600円、小・中学生300円



「本朝廿四孝」八重垣姫(1963年3月歌舞伎座) 世田谷美術館蔵

小松左京展 ― D計画 ― 12月22日 第38回世田谷の書展 2020年1月5日～12日

12月

2020年1月

2月

3月

ようこそ歌舞伎の国へ 六世 中村歌右衛門展

1月18日～4月5日

コレクション展

「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち

開催中～2020年4月5日(日)

観覧料: 一般200円、高校・大学生150円、65歳以上・小・中学生100円



「新青年」博文館

同時開催:「ムットーニのからくり劇場」もお楽しみいただけます



ムットーニ《猫町》1994年
原作: 萩原朔太郎「猫町」



ムットーニ《眠り》2007年
原作: 村上春樹「眠り」

Special Exhibitions

Sakyo Komatsu – Plan D

Exhibition period: On display now through Dec. 22 (Sun.)

Admission fee: General 800 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 600 yen, Students (Junior High, Elementary School) 300 yen

The 38th Setagaya Calligraphy Exhibition

Exhibition period: Jan. 5 (Sun.) – 12 (Sun.), 2020

Admission fee: Free

Welcome to the World of Kabuki
Nakamura Utaemon VI Exhibition

Exhibition period: Jan. 18 (Sat.) – Apr. 5 (Sun.), 2020

Admission fee: General 800 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 600 yen, Students (Junior High, Elementary School) 300 yen

Permanent Collection

“Shin-seinen” and Setagaya Writers

Exhibition period: On display now through Apr. 5 (Sun.), 2020

Admission fee: General 200 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 150 yen, Students (Junior High, Elementary School) 100 yen

* Groups of 20 + visitors will receive a 20% discount on admission fee to both collection and special exhibitions
Disability certificate holders will be admitted at 50% the general rate

* 企画展・コレクション展ともに団体(20名以上)は2割引
障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額

開館時間:
10時～18時(展覧会入場は17時30分まで)
休館日:
毎週月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し翌日休館)

交通案内:
京王線 「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線 「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)
「芦花恒春園」下車徒歩5分

* 駐車場は利用台数が限られます。
公共交通機関のご利用をお願いします



Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday)

Access: 5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)
5-minute walk from Roka Koshun-en Park (take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-Karasuyama Station [Keio Line])

* The number of parking spots available for use is limited. Please use public transportation.